

第 2 回懇談会 事前意見一覧

【栄養・食生活】

○ 第 3 数値目標について

番号	指標	ご意見を伺いたい点
⑤	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が 1 日 2 回以上の日がほぼ毎日の者の割合	<p>【目標値の考え方について】</p> <p>国は 50%としているが長野県の現状は 49.3%と国の目標に近づいている。前回同様 80%としてよいか、あるいは現状値と乖離があるためもう少し低くするか、または、国の目標と同じ（現状維持とする）でよいか</p> <p>【ご意見・ご提案】</p> <p>○ 現状維持にすることは、目標値を下げることになります。前回と同じ 80%でよいと思います。</p> <p>○ R1 年の結果では、性・年齢階級によっては、50%を超えるので、前回同様（80%）が良いと考えます。国の状況は同様でしょうか（性・年齢階級によっては目標値を超えているが、全体数値は 50%としているのでしょうか）。</p> <p>また長野県 H28 年は 49.8%、R1 年は 49.3%と全体では変化がないですが、性・年齢階級別では変化は確認されましたか。</p> <p>○ 当部会の中でも意見を求めたところ、意見が割れています。</p> <p>・現状は国の目標に近づいているので、前回同様 80%として、高い目標に向かって指導を継続する。</p> <p>・現状値と目標値の乖離が大きいのので、もう少し目標を低くしたほうが良いか。それが 60%なのか 70%なのかは決めかねない。低い目標値とするための指標については、県に委ねる。</p> <p>○ <前回同様 80%> P2 女性の低栄養傾向の高齢者の割合が増加傾向であること、若者の野菜付属状況からバランスを意識した食事の推進は必要と考える。現状と乖離はあるが目指すべき目標として掲げてよいかと思う</p> <p>○ 前回、目標の 80%が達成できなかったもので、50%は 2 人に 1 人なので、次は 3 人に 2 人（66.6%）を目指して 65%以上を指標とするのも一つの案かと思います。（根拠に乏しい気もしますが・・・）</p> <p>○ 栄養のバランスを考えたとき、若い世代に対してはこちらの指標が現状を反映しているかどうかという点と難しいのではないかと。</p> <p>目標値については国と同じ 50%としてよいのではないかと。</p> <p>外食、コンビニ食等食が多様化しており、県民栄養調査の結果を見ると野菜が足りないこと、エネルギー比における脂肪の割合が高く、飽和脂肪酸が男女とも 7%を超えている。若い世代の糖尿病が増えているこ</p>

と、子どもの肥満の課題からはメタボリックシンドローム等による、虚血性心疾患等が増えることが予測されるのではないかと。この現状を考えると、野菜の指標のほかに、脂肪の摂取などを指標とし加えることを検討してはどうか。

○ 前回目標が 80%と国の目標と乖離している理由をご確認くださいますようよろしくお願いいたします。その理由次第で、特に県独自の目標を作らずに、国の目標と同じで良いのではないのでしょうか。

○ 80%は高い値なので、年々どの程度増加しているかを把握し、6 年後、どの程度増加が期待できるかで、数値を算出し、妥当性を検証してはどうか。

○ 前回同様 80%でよいと思いました。

※乖離があつて目標を少し下げるのであれば、国の目標値の設定方法に合わせて、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が 1 日 2 回以上の日が「週に 4 ～ 5 日」、「週に 2 ～ 3 日」、「ほとんどない」者のそれぞれが 2 日程度増やすことで、全体として「ほぼ毎日」の者が 30%増加することを見込んだ値？などで設定してもよいかなと思いました（それが 80%？）。

○ 前回目標値から下げるのは、県の姿勢として後ろ向き感が出てしまうので、前回同様、80%でよいと考えるが、目標数値の考え方は整理する必要がある。

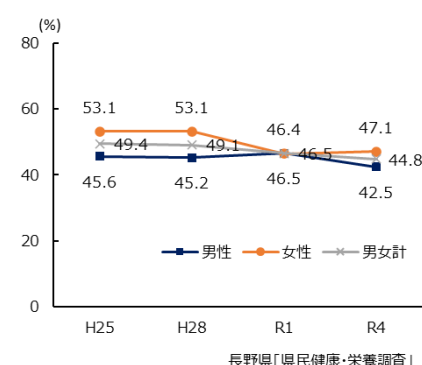
○ 目指していくべきもので、県民の皆さんにもどのくらいの状況かわかるように 80%としてもよい。

【参考】

主食・主菜・副菜を組み合わせた食事がほぼ毎日の者の割合の年次推移→

増加傾向にあるとは言い難い。80%目標は現実的でない。

緩やかに減少傾向にあるとも見られ、現状維持的に 50%以上を目標とするのが妥当？主食抜きなどの流行りもあり、何もしなければ減少していく予想か。→50%いかが。



⑥	食塩摂取量（1 人 1 日 当たり）	【目標値の考え方について】 国は 7g としているが、県目標は国と合わせてよいか。 （参考：国食育計画 8g、県食育計画 8 g）
---	--------------------	--

【ご意見・ご提案】

○ 実際の食塩摂取量は減少していないが、目指す数値を明らかにする意味でも、目標値は国と同様でよいと思います。

○ 国の 7g と合わせるのが良いと思います。目標値を上回る割合が減ってしまいましたが、国との比較をしていく際に煩雑にしないためと考えます。

○ できれば、国と県の食育計画 8g の目標に合わせていただいたほうが、現場では指導しやすい。県で 2

<p>つの目標値があると、保護者や地域の方に目標値を示す場合、どちらにしたらよいのか迷ってしまう。</p> <p>○ <7 gと合わせる></p> <ul style="list-style-type: none"> ・長野県の課題である高血圧対策への強化 ・減塩食品の市場拡大に併せ、目標値を上げてよいのではないか。 <p>○ 県の目標として数字が2つあると県民が混乱するので、県食育計画にあわせて8 gで良いと思います。8 gでもまだ達成が難しいのが長野県の実態だと思っています。</p> <p>○ 国の目標値と国食育計画の数字が違うのはなぜか、ご確認くださいませようよろしくお願いいたします。その理由次第で、国目標と合わせて良いのではないのでしょうか。</p> <p>○ 目標値7 gで良いと思いますが、実現可能性は低いかなと感じています。</p> <p>○ 現状、国より1g 程度多いことから、8g で問題ないのではないかと。</p> <p>○ 国目標にあわせてよいと思いました。</p> <p>○ いろいろな目標があってもわかりづらい。県食育推進計画と同じ8 gでよい。</p> <p>○ 国に合わせる形で7 gでよいと考える。</p>		
⑪	食品中の食塩や脂肪の低減に取り組む飲食店の増加	<p>目標値は1,000 店舗でよいか。</p> <p>40～50 店舗/年で増やす計算だが、実行できるか。</p>
<p>【ご意見・ご提案】</p> <p>○ 保健所での登録は全県で年間 20 件ほど。健康増進課でチェーン店との連携など大規模な取組を予定していないのであれば実現しない値ではないのでしょうか。</p> <p>○ ・飲食店だけでなく、弁当等の食品関連業者も加えてはどうか。</p> <p>・何をもち、"取組む飲食店"となるかの定義付けがされているのか。</p> <p>○ 国においても健康的で持続可能な食環境づくりを重要視しているので、飲食店へのアプローチは重要だと感じていますが、当所の状況を考えたときに今の体制で毎年、40～50 店舗/年、1 つの所で4～5 店舗/年ずつ増やしていくのは実行できるか不安に感じました（チェーン店などにうまくアプローチできたらよいですが…）。今年度に取り組むプロモーションで、現在は提供していない店なども把握できてしまうのでは…と少し心配もあります。</p> <p>○ 現在の店舗数を精査してみて検討する。現在、国のスマートミールの制度等に登録しているところもある。</p>		

削除	健康づくりメニューの提供 飲食店増加のための研修 会の開催	⑪の目標達成のためには必要と考えられるが、指標に入れなくても、取組に書かれていればよい。
<p>【ご意見・ご提案】</p> <p>○ 取組で入れればよい</p> <p>○ P5～県取組（政策の展開）に記載があることを思うと、数値目標の指標として入れた方がよいのかなと思いました。2 期では目標設定がありませんでしたが、第 3 の 2 期現状と目標の記載は「実施」という記載でよいのでしょうか？</p> <p>○ 目標達成のための方法であり、記載があれば、指標にいれなくてもよい。</p> <p>○ アウトプット指標を入れると他の重要なアウトカム指標が見えづらくなるので不要と考える。</p>		

○ その他

番号	ページ	該当箇所	修正・提案 等
①	全体	第 1 現状と課題 全体について	食生活、運動は生活習慣病等の発症、重症化予防の重要な手段であり生活習慣病等の指標と関連付けての分析が必要ではないか。
②	2	やせ	低栄養傾向の高齢者の割合の図および説明はありますが、20－39 歳女性のやせの者の割合は、なくてもよいでしょうか。頁数に限りはあると思いますが、重要な内容と考えます。
③	3	食塩摂取量	全国平均との比較だけでなく、摂取量の推移について加えることで、食塩摂取量の減少が進んでいない現状がよりはっきりすると思います。
④	4	食環境整備	健康を配慮したメニューの基準を明記すると、そのメニューを提供する飲食店やスーパーマーケット、コンビニエンスストア、社員食堂が増えることで、働き盛り世代の肥満者の減少につながることもはっきりします。加えて野菜摂取量の増加、食塩摂取量の減少、主食、主菜、副菜がそろった食事をする者が増えることの改善にもつながるので、食環境整備の一環としてすすめていくことの根拠がはっきりすると思います。

⑤	4	第2 目指すべき方向と 施策の展開の(2) 市 町村の二つ目の○の 「朝食喫食」	通常では「朝食喫食」との言い方はしないと思います。 県民の取組には「朝食の摂取」となっているので、同じ表現が よいと思います。
⑥	4	目指すべき方向と施策の 展開 県民の取組	「健康な食事」実践ガイドの表現を参考に、(1)と(2)を あわせて、「減塩で主食・主菜・副菜がそろった健康な食事」と いう表現もよいかなと思いました。
⑦	4	同上	調味料の量を減らす、料理の組み合わせに配慮するなど、適 塩の実践。
⑧	4	目指すべき県民の健康 状態等	高齢者だけでなく若い女性のやせ(女性生徒含む)が減少 することを入れてもいいかなと少し思いました。
⑨	4	関係団体の取組、飲食 店等	下の表現(2) 市町村にあわせて、「野菜たっぷり」や「適 塩」に配慮したメニューの提供だと統一感がとれて柔らかな表 現になるのかなとも思いました。
⑩	5	4 県の取組(施策の展 開)	前回の懇談会において、若年者への取組のニーズが出されて いたかと思います。 県の取組としても可能な展開を追加されるのはいかがでしょう か。(市町村や関係機関・団体の取組を取りまとめるような 内容で、実態把握を進めるようなものでも良いかもしれません)
⑪	6	<u>地域統</u> で共食している者 の割合	地域統 → <u>地域等</u> でしょうか？
⑫			(栄養) 健康格差への対応についての取組は、必要ではないか。

⑬			<p>(栄養、身体活動)</p> <p>記載されている以外にも、協会けんぽ、栄養士会、健康運動指導士会等、多くの関係団体で取組んでいる施策があると思われるので、取組を把握する必要があるのではないか。</p>
⑭			<p>(栄養)</p> <p>健康運動指導士の市町村での活用という取組があるので、栄養分野で、市町村栄養士の配置促進を記載してもよいのではないか。</p>
⑮			<p>(栄養)</p> <p>関係団体の取組で、高齢者施策がない。通いの場、食育ボランティア、栄養士会等の取組があると思うが。</p>
⑯			<p>通いの場での栄養や身体活動の取組状況</p>
⑰			<p>現状と課題についてと、目指すべき方向と施策の展開・数値目標の対応表を作成して確認しました。この３つは必ずしも対応しなくても良いでしょうか。また気づいた点は表下に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対応しなかったものは、「地域等で共食している者の割合」、→ ２県民の取組として望まれること（１）でしょうか？ ・ ⑬栄養成分表示の活用の数値目標は削除となっているが、目指すべき方向には残されている。 ・ ⑯食品中の食塩や脂肪の低減に取り組む飲食店の増加、の表現を検討した方が良いでしょう。健康的で持続可能な・・・というような表現が今風でしょうか？ ・ 食事のバランス、栄養バランス、どちらの表現が良いでしょうか。

【身体活動・運動、休養】

○ 第 3 数値目標について

⑤	足腰に痛みのある人の割合	ロコモ減少に向けての国の新たな指標だが、県では数値をとることが難しい。これに代わる別の指標があるか (④は国の指標に習い削除)
---	--------------	--

【ご意見・ご提案】

- 国保・協会けんぽなどのレセプトから治療している方の割合を拾うとか、特定健診の問診の自覚症状等のデータは使用できないのでしょうか？
 - 提案はありません。
- これまで実測値が難しい場合は、主観的な回答などを代わりにするのはみたことがあります。
- 特定健診の質問項目 ほぼ同じ年齢の同性と比較して歩く速度が速い。
 - KDB の筋骨格で要支援・要介護となっている人の割合を指標にするなども方法としてはあるような気がします。市町村も比較できるものなので。
 - ロコモの把握は必要である。(指標となる数値はわかりません。)
 - よい指標が思いつきませんでした、考えてみます。
 - 国の指標に習ってのことではあるが、足腰に痛みのある人が必ずしもロコモに起因するものとは限らないように思うので(要因が色々)、ロコモ減少につながる指標として足腰に痛みのある人の割合でよいのかと疑問に感じた。

番号	ページ	該当箇所	修正・提案 等
①		課題	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行数のみではなく、活動量計を用いて運動量データを把握する ・座位行動時間を減少させる
②	11	健康運動指導士登録状況	(提案) 各自治体(市役所、役場)に所属している健康運動指導士の人数を示したらいかがか。
③	10	運動習慣のある者の割合	授業以外の1週間の総運動時間が60分未満の子どもの割合で、全国平均を顕著に上回っているのは小学生女子
④	16	4 県の取り組み②	<p>長野県版身体活動ガイドライン(ずくだすガイド)は今後も普及啓発していくということであるが、運動アドバイザー派遣の際にずくだすガイドの配布周知を依頼団体にもお願いしてはいかがでしょうか。</p> <p>また、長野県版身体活動ガイドラインは長野県独自で作成されたものですが、国が示した、健康づくりのための身体活動基準・指針2013を基にしています。国では2023年度に身体活動基準・指針を改訂の計画をしていますので、長野県版身体活動ガイドライン(ずくだすガイド)もぜひ改訂をお願いしたい。</p>
⑤			<p>(身体活動)</p> <p>信州 ACE プロジェクトで行っている運動に関するイベント等の取組は、県の取組には、記載しないのか。</p>
⑥			<p>(栄養、身体活動)</p> <p>記載されている以外にも、協会けんぽ、栄養士会、健康運動指導士会等、多くの関係団体で取組んでいる施策があると思われるので、取組を把握する必要があるのではないか。</p>